

# 2022年12月期 第117期 第1四半期 業績概要

2022年5月13日  
日東精工株式会社  
(証券コード 東証プライム:5957)



2022年3月  
健康経営銘柄  
2年連続選定

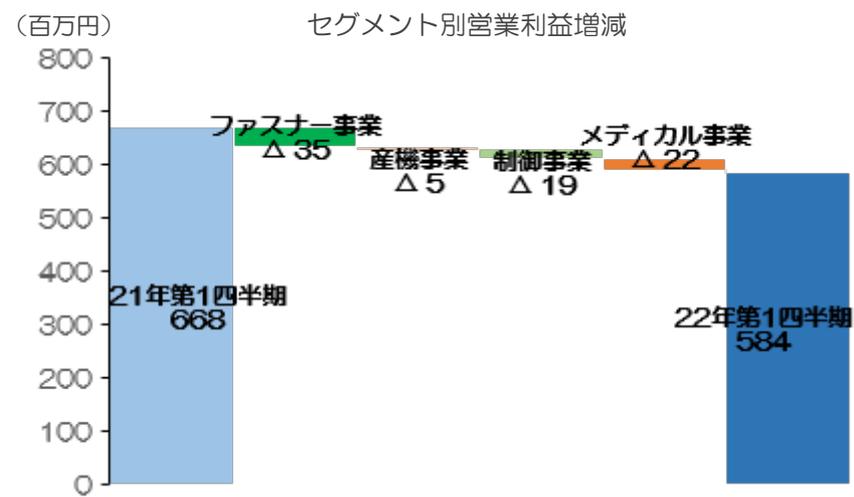
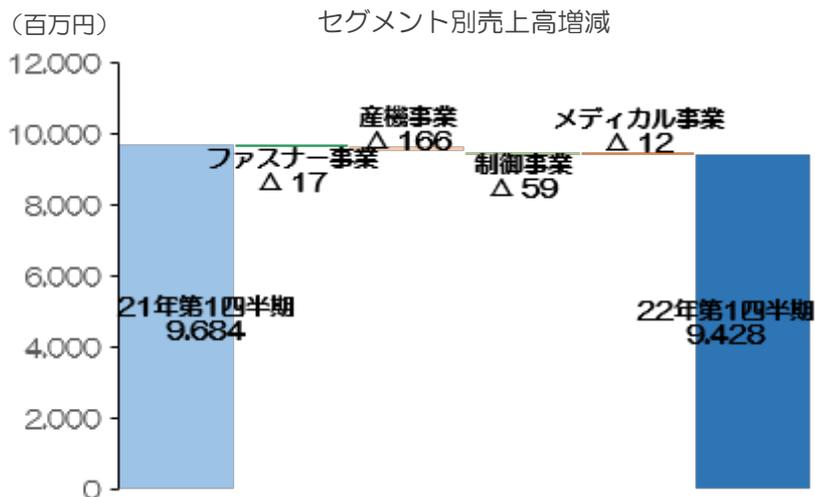
2022年3月  
なでしこ銘柄  
初選定

単位：百万円／％	21年12月期 第1四半期		22年12月期 第1四半期		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	9,684	100.0	9,428	100.0	△256	△2.6
売上総利益	2,334	24.1	2,252	23.9	△82	△3.5
販売管理費	1,666	17.2	1,667	17.7	0	0.0
営業利益	668	6.9	584	6.2	△83	△12.5
経常利益	746	7.7	665	7.1	△81	△10.9
税金等調整前当期純利益	868	9.0	665	7.1	△202	△23.4
親会社株主に帰属する当期純利益	448	4.6	430	4.6	△18	△4.1
一株当たり当期純利益（円）	12.19		11.66			

- 売上高比率の高い自動車関連、電機・電子部品関連が長期化する半導体不足の影響を受け前年同期比2.6%減収。
- 減収の影響とロシア軍事侵攻などによる急激な原材料価格の高騰を受け、前年同期比12.5%減益。
- 巣ごもりの定着化により住宅・建築、ゲーム機関連などの需要は堅調。
- ECU基盤・CASE・EV車向けでは、「緩み止め」や「回り止め」などの依然需要の高いオリジナルねじ製品の拡販に注力。半導体不足解消後の新規顧客獲得に備える。
- 「医療用生体内溶解性高純度マグネシウム材料」の製品化に注力。また、メディカル製品の開発・製造体制の強化ならびに業務提携先とのタイアップなど売上高確保に向けた施策を実行中。
- 自動車、建築業界向けのねじ・ナットを手掛けるケーエム精工(株)、(株)ピニングを子会社化。第2四半期決算から組み入れ。

# セグメント別売上高・営業利益（連結）

単位：百万円／%		21年12月期 第1四半期	22年12月期 第1四半期	前年同期比	
				増減額	増減率
ファスナー事業	売上高	6,948	6,931	△17	△0.3
	営業利益	401	365	△35	△8.9
	利益率	5.8	5.3		
産機事業	売上高	1,401	1,234	△166	△11.9
	営業利益	210	205	△5	△2.5
	利益率	15.1	16.7		
制御事業	売上高	1,319	1,260	△59	△4.5
	営業利益	58	38	△19	△33.8
	利益率	4.4	3.1		
メディカル事業	売上高	14	1	△12	△90.8
	営業利益	△2	△24	△22	—
	利益率	△15.0	△1,912.3		



単位：百万円/%	21年 第1四半期	22年 第1四半期	前年同期比	
	金額	金額	金額	増減率
売上高	6,948	6,931	△17	△0.3
自動車	2,749	2,515	△234	△8.5
電機・電子部品	1,286	1,267	△19	△1.5
住宅・建築	1,081	1,258	176	16.3
雑貨	498	536	37	7.5
IT・情報機器	392	334	△58	△14.8
精密機器	246	255	8	3.3
医療	72	83	10	14.3
エネルギー関連	45	33	△12	△26.4
その他	577	650	73	12.8
営業利益	401	365	△35	△8.9

- ・売上高は、半導体不足の長期化により自動車、電機・電子部品関連など低調なものの、コロナ禍で依然堅調な住宅、雑貨（ゲーム機）関連の下支えもあり微減。
- ・中国やインドネシアなどは、主力の自動車、電機・電子部品などが好調に推移。

## ◆自動車

- ・顧客需要はあるものの半導体等の部品不足による各社自動車生産計画の下方修正が続き低調に推移。
- ・製品別では電動化にともないギア部品が年々増加傾向。また、EV化が進みセンサー部品やECU向け等に当社オリジナルねじ製品が増加傾向。

## ◆電機・電子部品

- ・巣ごもりによる家電向けねじ製品の需要はあるものの、半導体不足の影響を受け前年同期並みに推移。

## ◆住宅・建築

- ・一部のハウスメーカーからの受注が堅調で、住宅設備関連向けねじ製品が好調に推移。

## ◆雑貨

- ・自転車、ゲーム機、電動工具向けなどのねじ製品が貢献し堅調。

## ◆IT・情報機器

- ・半導体不足の影響が大きくパソコン、スマホ向けねじ製品は低調に推移。

単位：百万円/%	21年 第1四半期	22年 第1四半期	前年同期比	
	金額	金額	金額	増減率
売上高	1,401	1,234	△166	△11.9
自動車	927	870	△57	△6.2
エネルギー関連	60	62	1	3.2
遊技機	16	49	33	208.7
電機・電子部品	162	47	△115	△71.3
住宅・建築	29	36	7	24.3
IT・情報機器	7	29	22	319.5
医療	14	1	△13	△92.3
その他	185	140	△44	△24.0
営業利益	210	205	△5	△2.5

- ・IT・情報機器関連が好調なものの、主力の自動車、電機・電子部品関連が半導体不足の影響を受け低調に推移。
- ・新製品の協働ロボット「PD400URシリーズ」のPRに注力し、海外を含む拡販を展開し底上げを狙う。

## ◆自動車

- ・国内では、CASE関連・EV車関連、海外では、新車種・新エネルギー車向けなどの設備需要があるものの、長引く半導体不足の影響により低調に推移。

## ◆エネルギー関連

- ・ガス関連製品製造設備用の「ねじロボ」需要があるものの横ばい。

## ◆遊技機

- ・生産設備の改造に伴う「ねじロボ」「多軸ねじ締め機」の需要が大幅増。

## ◆電機・電子部品

- ・半導体不足の影響が大きく、家電向けの売上高は大幅減。

## ◆住宅・建築

- ・給湯機器関連向け「ねじ締め機」の需要は堅調。

## ◆IT・情報機器

- ・スマートフォン関連のねじ締め設備の需要が大幅増。

単位：百万円/%	21年 第1四半期	22年 第1四半期	前年同期比	
	金額	金額	金額	増減率
売上高	1,319	1,260	△59	△4.5
化学・薬品	270	274	4	1.5
エネルギー関連	242	230	△12	△5.4
住宅・建築	118	127	9	8.0
造船	64	71	7	12.4
自動車	83	51	△31	△38.6
医療	38	28	△9	△25.1
食品	21	25	3	18.7
その他	483	453	△30	△6.2
営業利益	58	38	△19	△33.8

- 売上高は、分析装置および流量計の需要が堅調なものの、自動車関連などの低調な需要の影響を受け前年同期比で微減。
- ジオカルテは、買い替え需要により堅調。

## ◆化学・薬品

- 分析装置の需要は、引き続き海外を含み堅調。

## ◆エネルギー関連

- 元素計、水分計など分析装置の需要はあるものの、部材不足の影響を受け売上高は微減。

## ◆住宅・建築

- 戸建て住宅着工件数の増加はみられないものの、新製品「ジオカルテⅣ」の更新需要が引き続き堅調に推移。

## ◆造船

- 船舶排ガス規制強化を受けて流量計の更新が活発となり好調に推移。

## ◆自動車

- 部品検査装置は、需要先工場の減産による設備投資計画の見直しの影響を受け低調に推移。

単位：百万円/%	21年 第1四半期	22年 第1四半期	前年同期比	
	金額	金額	金額	増減率
売上高	14	1	△12	△90.8
医療	14	1	△12	△90.8
その他	—	—	—	—
営業利益	△2	△24	△22	—

## ◆医療

- 「フリーレッド」は、海外への拡販、医療機器販売会社を通じた販路拡大などに努めるも、医療機関への訪問自粛の緩和はなく引き続き厳しい状況が続く。
- 「医療用生体内溶解性高純度マグネシウム材料」は、製造設備の構築および上市に向けた臨床試験用試作品の製作、性能試験に注力。